

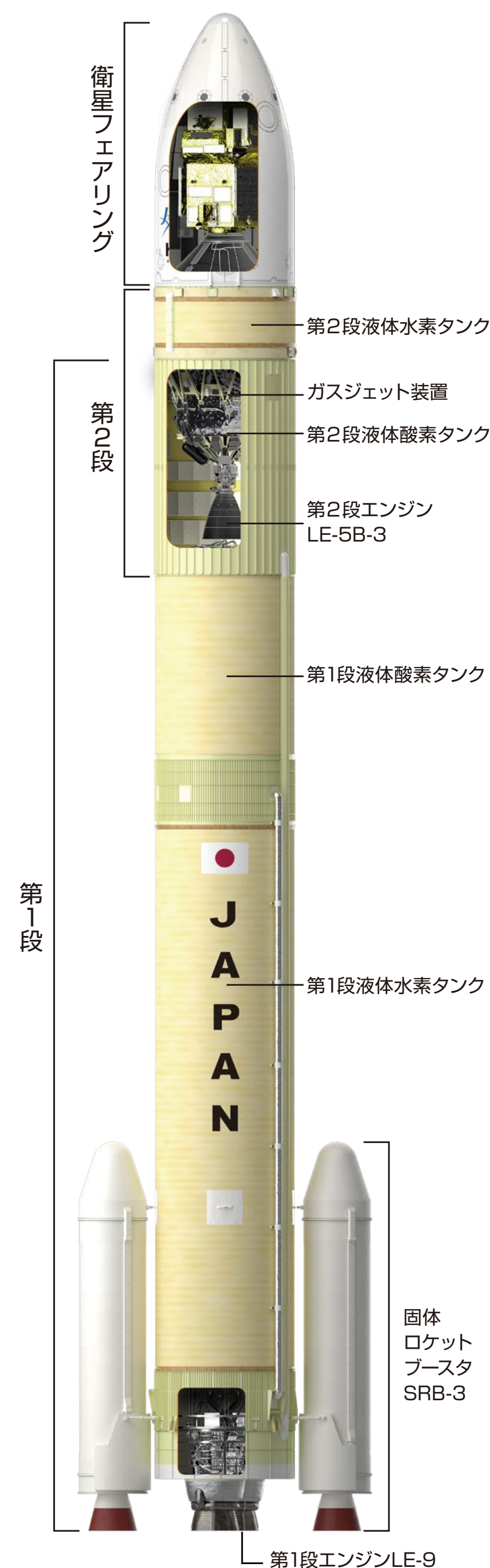
H3ロケット



H3ロケット試験機2号機の打ち上げ

日本の技術で、宇宙輸送をリードせよ。

H3ロケットは、日本の新しい基幹ロケットです。国の重要な衛星や探査機などを宇宙へ輸送する手段を今後も継続的に持ち続けるために、H-IIA/Bロケットの後継機として開発されました。今後20年を見据え、毎年6機程度を安定して打ち上げることで産業基盤の維持を目指しています。そのためには、政府の衛星だけでなく、民間商業衛星の受注が不可欠です。世界中で新しいロケットが開発される中、商業衛星に利用してもらうためには、日本国内だけでなく世界中の利用者から使いやすいロケットとして注目されるような新しいロケットを作る必要があります。H3ロケットは世界のニーズを調査・予測し、それに応えるロケットとして開発されました。日本のみならず、世界中から使ってもらえるロケットにするために、JAXAとプライムコントラクターである三菱重工業株式会社を始めとする国内の企業が総力を結集して、低価格・柔軟性・高信頼性を兼ね備えたロケットシステムの実現を目指します。



使いやすいロケットを目指して

H3ロケットは世界でどのようなロケットが必要になるかを調査・予測し、それに応えるロケットとして、柔軟性・高信頼性・低価格の3つの要素を実現します。

柔軟性

複数の機体形態を準備し、利用用途にあった価格・能力のロケットを提供します。打ち上げまでの期間短縮により、「すぐに打ち上げたい」という利用者の声に応えます。

高信頼性

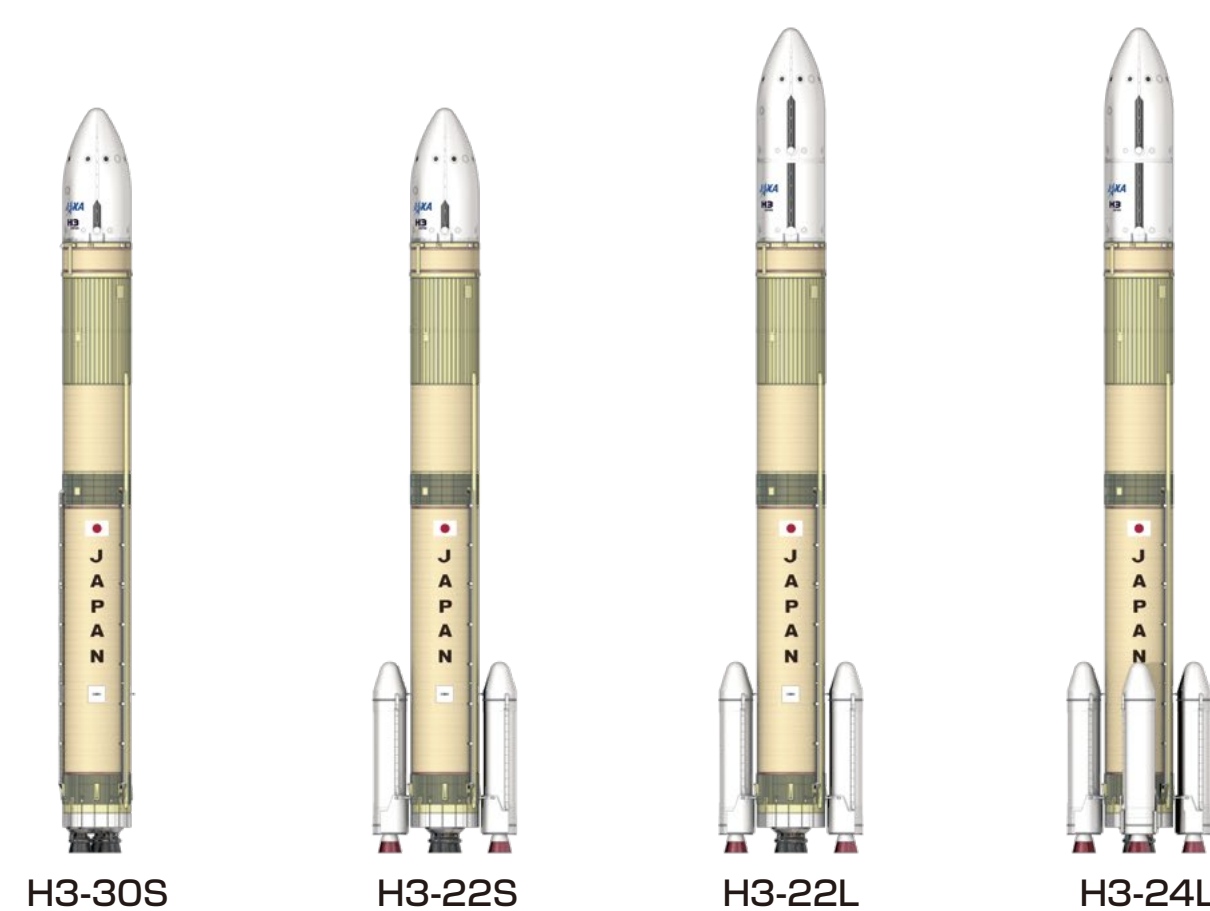
H-IIA/Bロケットの高い打ち上げ成功率を継承し、確実に打ち上がるロケットにします。

低価格

H-IIA/Bロケットから打ち上げ価格を低減します。

過去最大のパワーと多様な機体形態

H3ロケットは2種類のフェアリング、第1段エンジン（LE-9）2基または3基、固体ロケットブースタ（SRB-3）0本、2本、4本の切り換えにより、様々な大きさや軌道の人工衛星の打ち上げに対応します。静止トランスファ軌道への打ち上げ能力は、これまでのH-IIA/Bロケットの能力を上回る過去最大に設定しています。



●主要諸元

全長	63m(ロングフェアリング)	57m (ショートフェアリング)
外径	5.2m	
打ち上げ能力	静止トランスファ軌道に6.5トン以上	
全備質量	574トン(H3-24L)	
フェアリング	ショートタイプ(S)、ロングタイプ(L)	
第2段エンジン	LE-5B-3(1基)	推力: 137kn(1基あたり)
第1段エンジン	LE-9(2基/3基)	推力: 1472kn(1基あたり)
固体ロケットブースタ	SRB-3(0本/2本/4本)	推力: 2158kn(1基あたり)